

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 6 部門第 3 区分  
 【発行日】平成20年12月25日 (2008.12.25)

【公開番号】特開2007-133809(P2007-133809A)  
 【公開日】平成19年5月31日 (2007.5.31)  
 【年通号数】公開・登録公報2007-020  
 【出願番号】特願2005-328483(P2005-328483)  
 【国際特許分類】

**G 0 6 F 17/30 (2006.01)**

【F I】

G 0 6 F 17/30 2 1 0 A

G 0 6 F 17/30 2 4 0 A

G 0 6 F 17/30 3 4 0 B

【手続補正書】  
 【提出日】平成20年11月12日 (2008.11.12)  
 【手続補正 1】  
 【補正対象書類名】特許請求の範囲  
 【補正対象項目名】全文  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】  
 【特許請求の範囲】  
 【請求項 1】

キーワードとコンテンツを対応付けて記憶する記憶手段の検索を行う情報処理装置であって、

入力された検索キーワードに基づいて、前記記憶手段に記憶されているコンテンツを検索する検索手段と、

前記記憶手段に記憶されているコンテンツに対して為された前記検索手段による検索履歴を保存する保存手段と、

前記検索手段による新たな検索と、前記保存手段で保存されている検索履歴とを比較することによって、前記記憶手段に記憶されているコンテンツに対応付けられているキーワードを更新する更新手段と、  
 を有することを特徴とする情報処理装置。

【請求項 2】

前記更新手段は、前記検索手段の新たな検索で用いられた検索キーワードと、前記検索履歴に保存されている以前の検索で用いられた検索キーワードとを比較することによって、当該検索されたコンテンツに対して追加更新するキーワードを選定することを特徴とする請求項 1 記載の情報処理装置。

【請求項 3】

前記更新手段で比較対象にする前記検索履歴の条件を設定する履歴検索条件設定手段を更に有し、

前記更新手段では、前記履歴検索条件設定手段で設定された条件を満たす検索履歴と、前記検索手段による新たな検索とを比較することによって、当該検索されたコンテンツに対して追加更新するキーワードを選定することを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の情報処理装置。

【請求項 4】

前記更新手段では、前記検索手段による新たな検索と前記保存手段で保存されている検索履歴とを比較することによって、前記新たな検索で用いられたキーワードが所定回数以上使用されたキーワードであるか判断し、前記所定回数以上使用されたキーワードである

と判断された場合に、前記検索されたコンテンツに対して当該キーワードを追加更新することを特徴とする請求項 1 乃至 3 のいずれかに記載の情報処理装置。

【請求項 5】

前記更新手段では、更に、前記新たな検索で用いられたキーワードが所定文字数以内のキーワードであるか判断し、前記所定文字数以内のキーワードであると判断された場合に、前記検索されたコンテンツに対して当該キーワードを追加更新することを特徴とする請求項 4 記載の情報処理装置。

【請求項 6】

前記検索履歴に基づいて、前記記憶手段に記憶されているコンテンツに対応付けられているキーワードが検索処理に使用された回数が所定回数より少ないか判断し、

前記所定回数より少ないと判断した場合、当該キーワードを削除する削除手段を、更に有することを特徴とする請求項 1 乃至 5 のいずれかに記載の情報処理装置。

【請求項 7】

ネットワークを介してクライアント装置と通信する通信手段を有し、

前記入力された検索キーワードは、前記通信手段を介してクライアント装置から入力された検索キーワードであることを特徴とする請求項 1 乃至 6 のいずれかに記載の情報処理装置。

【請求項 8】

キーワードとコンテンツを対応付けて記憶する記憶手段を備える情報処理装置が実行するコンテンツ処理方法であって、

入力された検索キーワードに基づいて、前記記憶手段に記憶されているコンテンツを検索する検索ステップと、

前記記憶手段に記憶されているコンテンツに対して為された前記検索ステップによる検索履歴を保存する保存ステップと、

前記検索ステップで新たな検索が為された場合、当該新たな検索と、前記保存ステップで保存されている検索履歴とを比較することによって、前記記憶手段に記憶されているコンテンツに対応付けられているキーワードを更新する更新ステップと、  
を有することを特徴とするコンテンツ処理方法。

【請求項 9】

コンピュータに、キーワードとコンテンツを対応付けて記憶する記憶手段の検索を行わせるコンピュータプログラムであって、

該コンピュータを、

入力された検索キーワードに基づいて、前記記憶手段に記憶されているコンテンツを検索する検索手段、

前記記憶手段に記憶されているコンテンツに対して為された前記検索手段による検索履歴を保存する保存手段、

前記検索手段による新たな検索と、前記保存手段で保存されている検索履歴とを比較することによって、前記記憶手段に記憶されているコンテンツに対応付けられているキーワードを更新する更新手段、

として機能させることを特徴とするコンピュータプログラム。

【請求項 10】

前記更新手段では、前記検索手段の新たな検索で用いられた検索キーワードと、前記検索履歴に保存されている以前の検索で用いられた検索キーワードとを比較することによって、当該検索されたコンテンツに対して追加更新するキーワードを選定することを特徴とする請求項 9 記載のコンピュータプログラム。

【請求項 11】

前記コンピュータを、更に、前記更新手段で比較対象にする前記検索履歴の条件を設定する履歴検索条件設定手段として機能させ、

前記更新手段では、前記履歴検索条件設定手段で設定された条件を満たす検索履歴と、前記検索手段による新たな検索とを比較することによって、当該検索されたコンテンツに

対して追加更新するキーワードを選定することを特徴とする請求項 9 または 10 に記載のコンピュータプログラム。

【請求項 12】

前記更新手段では、前記検索手段による新たな検索と前記保存手段で保存されている検索履歴とを比較することによって、前記新たな検索で用いられたキーワードが所定回数以上使用されたキーワードであるか判断し、前記所定回数以上使用されたキーワードであると判断された場合に、前記検索されたコンテンツに対して当該キーワードを追加更新することを特徴とする請求項 9 乃至 11 のいずれかに記載のコンピュータプログラム。

【請求項 13】

前記更新手段では、更に、前記新たな検索で用いられたキーワードが所定文字数以内のキーワードであるか判断し、前記所定文字数以内のキーワードであると判断された場合に、前記検索されたコンテンツに対して当該キーワードを追加更新することを特徴とする請求項 12 に記載のコンピュータプログラム。

【請求項 14】

前記コンピュータを、更に、

前記検索履歴に基づいて、前記記憶手段に記憶されているコンテンツに対応付けられているキーワードが検索処理に使用された回数が所定回数より少ないか判断し、前記所定回数より少ないと判断した場合、当該キーワードを削除する削除手段、  
として機能させることを特徴とする請求項 9 乃至 13 のいずれかに記載のコンピュータプログラム。

【請求項 15】

請求項 9 乃至 14 のいずれかの記載のコンピュータプログラムを格納した、コンピュータ読み取り可能な記憶媒体。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】発明の名称

【補正方法】変更

【補正の内容】

【発明の名称】情報処理装置、コンテンツ処理方法、コンピュータプログラムおよび記憶媒体

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0001

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0001】

本発明は、保存されたコンテンツを検索処理する情報処理装置に関するものである。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0015

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0015】

キーワードとコンテンツに対応付けて記憶する記憶手段の検索を行う情報処理装置であって、入力された検索キーワードに基づいて、前記記憶手段に記憶されているコンテンツを検索する検索手段と、前記記憶手段に記憶されているコンテンツに対して為された前記検索手段による検索履歴を保存する保存手段と、前記検索手段による新たな検索と、前記保存手段で保存されている検索履歴とを比較することによって、前記記憶手段に記憶されているコンテンツに対応付けられているキーワードを更新する更新手段とを有することを特徴とする。

## 【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0017

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0017】

キーワードとコンテンツを対応付けて記憶する記憶手段を備える情報処理装置が実行するコンテンツ処理方法であって、入力された検索キーワードに基づいて、前記記憶手段に記憶されているコンテンツを検索する検索ステップと、前記記憶手段に記憶されているコンテンツに対して為された前記検索ステップによる検索履歴を保存する保存ステップと、前記検索ステップで新たな検索が為された場合、当該新たな検索と、前記保存ステップで保存されている検索履歴とを比較することによって、前記記憶手段に記憶されているコンテンツに対応付けられているキーワードを更新する更新ステップとを有することを特徴とする。

## 【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0039

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0039】

ポインティング・デバイスであるマウス 213 によりディスプレイ 216 上で画像情報の加工指示を行う。マウス 213 によりディスプレイ 216 上のカーソルを X, Y 方向任意に移動してコマンドメニュー上のコマンドやアイコンを選択する。そして、マウス 213 は、その選択の指示を行うほか、編集対象の指示、描画位置の指示等も行うようになっている。

## 【手続補正 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0049

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0049】

図 3 において、クライアント PC 101, 102, 103 は、情報登録モジュール 301 とコンテンツ検索モジュール 302 を備える。そして、情報登録モジュール 301 は、カタログ情報や画像データなどのコンテンツを Web A P S 109 に H T T P サーバ 108 を介して登録したり、商品データを出力するためのフォーム情報を登録したりする。また、クライアント PC 101, 102, 103 のコンテンツ検索モジュール 302 は、それらフォーム作成に必要なコンテンツを検索する。

## 【手続補正 8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0090

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0090】

そして、ステップ S 406 では、該当するコンテンツに対し、キーワード更新の有無および更新するキーワードの選定の判断を行う。この部分の詳細処理は図 5 のフローチャートにおいて説明する。

## 【手続補正 9】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0194

【補正方法】変更

## 【補正の内容】

## 【0194】

図17に示したステップS1702では、図13に示した検索キーワード1303、図20に示した検索キーワード2003と図18に示した選定条件データ1803、図20に示した回数2004を用いて判断することになる。

## 【手続補正10】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0195

【補正方法】変更

## 【補正の内容】

## 【0195】

データ全体1303、2003より同じキーワードは「旅」、「夏」、「西日本」に絞られる。

## 【手続補正11】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0204

【補正方法】変更

## 【補正の内容】

## 【0204】

図21は、本発明に係るサーバ装置における第6のデータ処理手順の一例を示すフローチャートである。本処理は、Web A P S 109のCPUによって実行される更新キーワード選定処理手順に対応する。なお、S601～S603、S1701、S1702、S2101、S606は各ステップを示す。また、各ステップは、ハードディスク210等からP M E M 203にロードされる制御プログラムをCPU202が実行することで実現される。なお、ステップS1701、ステップS1702を除いては図6と同様であるため説明は割愛する。また、ステップS2101を除いては図17と同様であるため、他のステップについて説明は割愛する。

## 【手続補正12】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0209

【補正方法】変更

## 【補正の内容】

## 【0209】

図4のステップS404で取得するデータと同分類であるが、内容の差異がある。検索エンジンから受けとる検索結果のデータ例であり、このデータをもとにクライアントPC上に表示されるWebページなどを作成してもよいことは図4と同様である。

## 【手続補正13】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0210

【補正方法】変更

## 【補正の内容】

## 【0210】

図22において、2201は受信するデータ全体を表す。データ1002は検索に該当したコンテンツを表す。実際はファイルの参照先などの情報として扱うことが想定されるが、本実施形態ではわかりやすさのために画像データで表示することとする。

## 【手続補正14】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0223

【補正方法】変更

## 【補正の内容】

## 【 0 2 2 3 】

図 2 5 は、図 1 に示した Web A P S 1 0 9 内の記憶媒体に格納されたデータの一例を示す図である。本例は、図 2 1 のステップ S 6 0 2 で取得するデータであり、図 2 4 に示したデータ 2 4 0 1 から必要な情報だけを抜き出したものであり、Web A P S 1 0 9 内の記憶媒体に格納されたデータである。

## 【 手 続 補 正 1 5 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 2 2 9

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

## 【 0 2 2 9 】

図 2 6 は、図 1 に示した Web A P S 1 0 9 内の記憶媒体に格納されたデータの一例を示す図である。本例は、図 2 1 のステップ S 2 1 0 1 で生成され保持されるデータであって、Web A P S 1 0 9 内の記憶媒体に格納されたデータである。図 2 6 において、2 6 0 1 データ全体を表す。2 6 0 2 は各データのカテゴリを示す領域で、更新対象コンテンツ、既存キーワード、削除キーワードの欄がある。2 6 0 3 は、前記領域 2 6 0 2 の対応する実データで「コンテンツ A」、「夏、旅、暑い、きれい」という情報を持っている。